



越前市におけるブラジル人児童へのオノマトペ習得支援

福井県立武生高等学校 伊吹建人 高島佑季 越崎智己



〈研究の目的〉 オノマトペ習得の支援を行い、日本語力を向上させることでブラジル人児童の日本での生活をより楽しいものにする

〈先行研究〉 ブラジル人児童は**オノマトペを苦手**とするが、学校教育においてオノマトペは、**学習の優先度が低い**

➡ ブラジル人児童のオノマトペ習得には**特別な支援を要する**

〈問い〉 児童のオノマトペ習得にはどのような支援が効果的なのか？

〈仮説〉 擬態語を中心とした**補助教材の提供が効果的**である

〈背景〉
・小学校の先生が擬態語を教えるのに苦戦していたということ
・先行研究より日本語学習支援には教科書の補助教材が効果的であったこと

〈調査方法〉

①武生南小学校でのテスト・アンケート

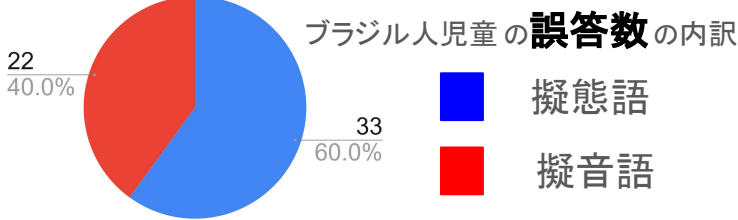
対象 …小学生3年～6年の児童
日本人 269人 ブラジル人 21人
実施日…七月の第三週
形式 …Googleフォーム

②児童の学習の様子を観察

対象…ブラジル人児童 10人ほど
場所…大虫公民館※、武生南小学校
日時…毎週火・木・土曜日※

〈結果〉

①の調査より



②の調査より

- ・滞在歴で日本語理解力の個人差がある
- ・特別な教材を使う児童もいる
- ・日常会話はできる児童が多い
- ・学習用の書籍はほとんど使われていない
- ・学校支給のタブレットの使用頻度が多い

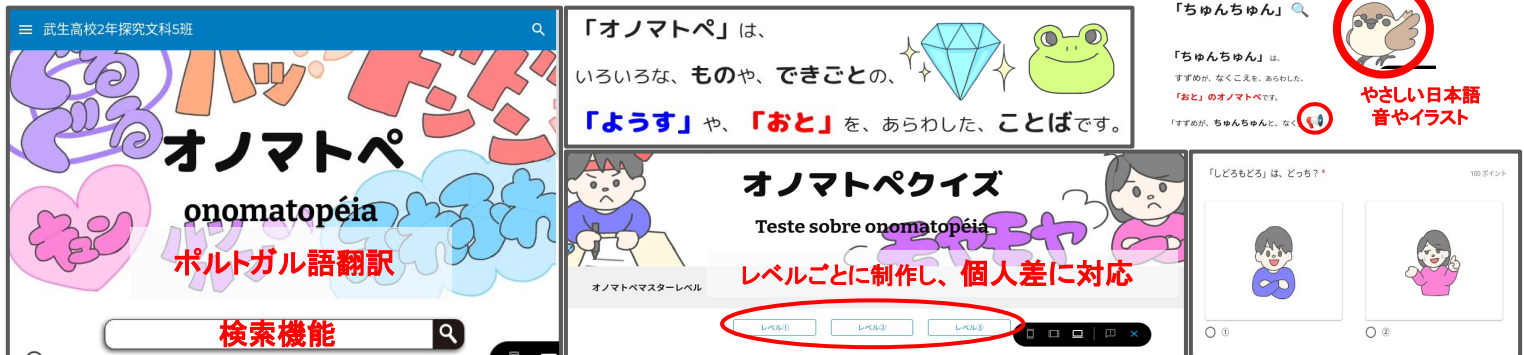
〈考察〉

擬態語が擬音語に比べて難しいとは **言えない**
書式形式の教材よりも**デジタルの教材**が適している

〈結論〉

検索式のWebサイトが効果的である

Webサイトの試作品



〈展望〉

Webサイトの完成を急ぐとともに、外国人児童の日本語学習における課題について理解を深め、彼らの日本での生活をより豊かにすることを目指します。